

平成22年度事業報告

1. 概要

22年度は事業計画に沿った活動を実施し、会員並びに国内外関係者の期待に概ね応えうる成果を得た。民間助成活動では、「山川海をつなぐ河川・水環境とその保全・回復に関する調査研究」、「ツオンティン地区での住民による安全な水作り活動」を行い、相応の成果をあげた。

また、「海の森づくり事業」の名称で千葉県南房総市及び三重県度会郡南伊勢町においてコンブ増殖試験を実施した。

平成23年3月31日時点での会員構成は、正会員25団体、賛助会員の個人会員11名である。

今期は理事会を3回、通常総会を2回、運営委員会を5回開催し、運営全般について審議を行った。

2. 自主調査研究事業

(1) 海の森づくり事業

「海の森づくり」をテーマとし、コンブ増殖事業試験を行った。千葉県南房総市及び三重県度会郡南伊勢町においてコンブ増殖試験を実施し、コンブの繁茂と生物増集効果の成果を得た。本事業は23年度も継続する調査研究事業とし、実施することとする。本事業はコンブ育成により、食物の生産以外に生態系の構築、水産業の発展、食品としての流通経路の確保、バイオエタノール抽出、海中の二酸化炭素の吸収といったことを今後の課題として研究するものである。

3. 助成・依託事業

(1) 河川整備基金助成事業

財団法人河川環境管理財団の河川整備基金助成による「山川海をつなぐ河川・水環境とその保全・回復に関する調査研究」委員会を6回行った。今年度は課題を検討するため、沿岸の水環境について東京湾、伊勢・英虞湾を研究フィールドとする研究者から、水管理の現状と課題及び水環境改善への対策事例の報告を受けた。事例として水環境の現状を科学的かつ政策的な捉え方で、現在の水質環境指標の評価の課題、今後の持続可能な水質環境へのあり方のための方策を検討した。

(2) TOTO水環境基金事業

TOTO株式会社のTOTO水環境基金による「ツオンティン地区での住民に

よる安全な水づくり活動」をベトナムにおいて実施した。本事業は平成 19 年 10 月より平成 22 年 9 月までの継続事業である。

事業進捗状況として、22 年度は現地に設置した水浄化施設の稼働状況の報告を受け、施設の運用、管理手法を現地に指示し、事業報告書を作成し、主催者に提出した。

4. 国際情報活動

(1) VIJA TECH CO. 社との事業協力

当協会会員企業の VIJA TECH CO. 社と共同し、ベトナムの港湾開発計画の検討、プラン作成等事業に対し検討会をもった。今後も定期的に検討会を開催することで、事業協力を行うこととした。

5. 広報

当協会事業活動報告として、ホームページを改編し協会活動の広報として掲示した。

6. その他

(1) 日本海洋工学会との事業活動

海洋に関連する行事に積極的に参加、協力、援助を行う協会の活動趣旨に沿って、日本海洋工学会（下記の 9 学会の関係者で組織された任意団体）が実施している海洋工学パネルの事務局を務めた。本年度の第 40 回海洋工学パネルは平成 22 年 7 月 30 日に開催した。

また、日本海洋工学会と日本船舶海洋工学会が共同主催する「第 22 回海洋工学シンポジウム」を 23 年 3 月 17、18 日に開催する予定であったが、東日本大震災の発生とその影響で開催が延期された。

日本海洋工学会加盟学会

特定非営利活動法人海洋音響学会、海洋調査技術学会、社団法人資源・素材学会、石油技術協会、社団法人土木学会、日本沿岸域学会、社団法人日本建築学会、日本水産工学会、社団法人日本船舶海洋工学会

(2) 湘南学園高校生徒の事務局訪問

神奈川県湘南学園高校から生徒 5 名が事務局を訪問し、当協会が行ってきた水浄化、配給事業の取材を受けた。堀田健治副会長、鈴木常務理事が事業紹介によりベトナムの水事情、水浄化、供給の重要性について説明を行った。